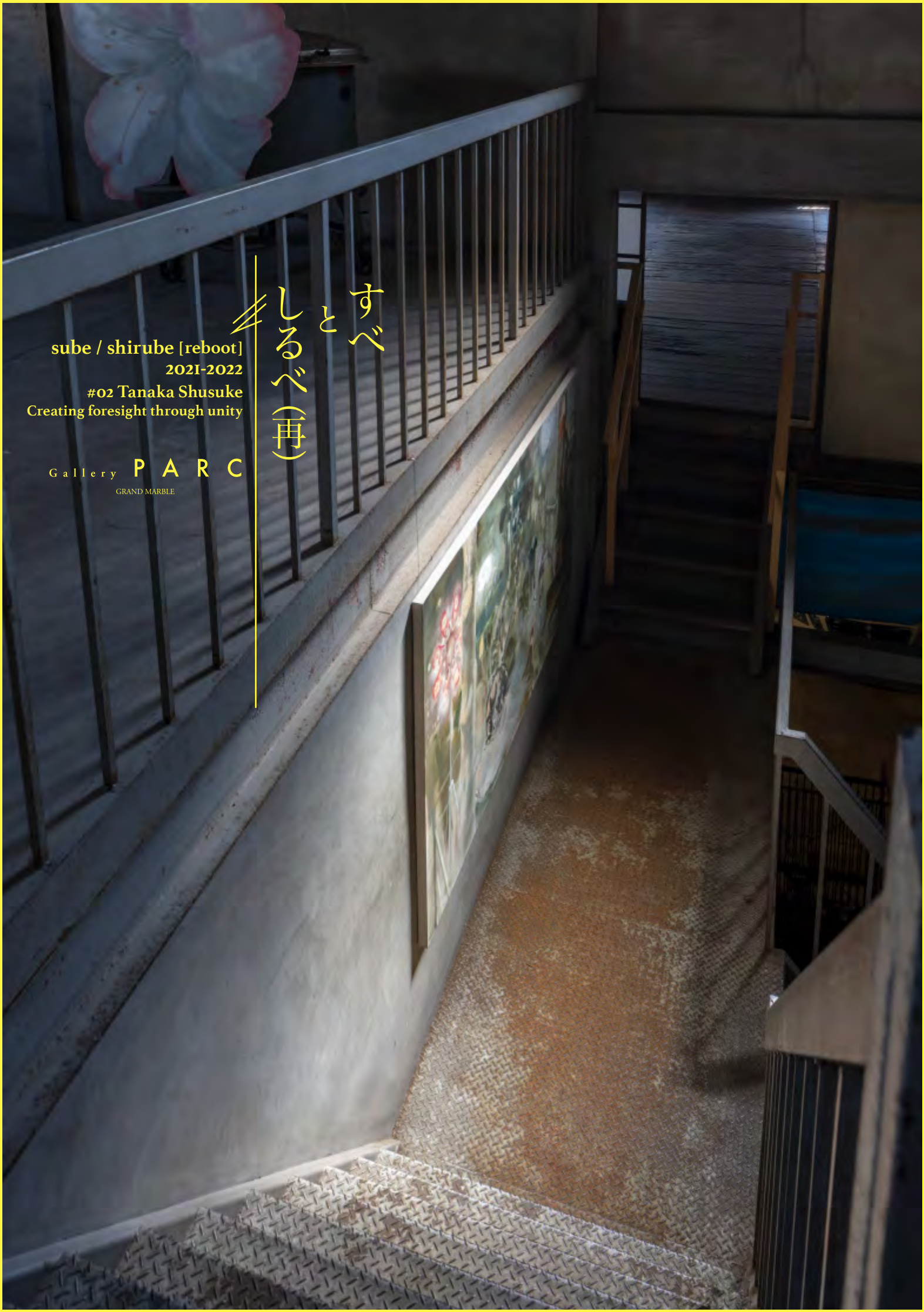


# すべとしるべ(再)

sube / shirube [reboot]
2021-2022
#02 Tanaka Shusuke
Creating foresight through unity

Gallery PARC
GRAND MARBLE

Gallery PARC
GRAND MARBLE

**Press Release:2022.07.07**

**sube / shirube [reboot]**
**2021-2022**
**#02 Tanaka Shusuke**
**Creating foresight through unity**
**2022.7.9 sat. —7.31 sun.**

『すべとしるべ 2021 記録集』 p.7 - p.8　デザイン・三重野龍、編集・野口卓海、撮影・麥生田兵吾、発行・ギャラリー・パルク　2021年

Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]では、『すべ と しるべ(再)』として、守屋友樹(2022年6月11日[土]から7月3日[日])・田中秀介(2022年7月9日[土]から7月31日[日])による2つの展覧会を連続開催いたします。

「展覧会」とは、アーティストが表現(すべ)を社会に向けてひらく標(しるべ)であり、また鑑賞者は作品と空間・時間をともにするなかで、それぞれにとっての方法(すべ)を発見する「体験」を得る機会・場であるといえます。『すべ と しるべ』は、ギャラリー・パルクが2020年より取り組むプロジェクトで、変容していく社会状況の中で「展覧会」という体験の機会をよりタフに起動させていくため、その方法の開発・獲得を目的に、とりわけ展覧会における「記録」に焦点をあてて取り組むものです。展覧会を異なる視点・異なるメディア(映像・写真・言葉)による自立した記録によって「つくり・のこす」ことで、それらが読み出される時に新たな体験を「おこす・ひらく」ための(すべ)を編み出していくものです。

2021年、京都府南丹市八木町に残る築400年を超える旧酒造を会場に、田中秀介(美術家)と守屋友樹(写真家)のそれぞれは6日間の展示公開を行なうとともに、その記録として麥生田兵吾(写真家・映像作家)と今村達紀(振付家・ダンサー)による映像、野口卓海(美術批評・詩人)の編集と三重野龍(グラフィックデザイナー)のデザインによる記録物を制作。これらは、ひとつの展覧会を起点にそれぞれが自立した眼差しから作品や表現を発見・解釈し、それぞれの媒体の特性をもって「つくる・のこす」ことに取り組むことで、記録を展覧会の補完物としての関係からズラし、それ自体が観賞体験を「おこす」ものとなるよう企図したものです。

本展『先見の形骸団子:Creating foresight through unity』は、2021年に京都府南丹市八木町に残る旧酒造を会場に開催した、田中秀介(たなか・しゅうすけ)による展覧会「馴れ初め丁場:Beginning of love」を、パルクの空間に(再)構成・(再)起動させるものです。

酒造りの場であった旧酒造の会場に、田中はいわゆる矩形の作品(正方形や長方形)だけではなく、変形作品を多く持ち込みました。背景として場や時間といった「状況」が描かれる矩形の作品と違い、対象物のみが描かれている変形作品は、ある時間・ある場所を切り抜き、異なる時空に貼り付けたかのようであり、絵は展示される状況(空間)に密接に関わることとなります。そして鑑賞者は『絵に描かれた状況』を想い、『この場所と絵との関わり』を探し、『今、目の前に広がる絵と場そのもの』を楽しむこととなります。

本展は、旧酒造という特徴的な空間に、変形作品として異なる時間・空間を切り取った絵が関わることを目論んで制作された作品群を、今度はギャラリーという空間・時間に持ち込んで(再)展開させるものであり、「絵画」にとっていわば日常空間ともいえるギャラリーという空間において、それぞれの絵がどのように振る舞うのか、あるいは旧酒造という空間をどのようにギャラリーに持ち込むのかについての試みといえます。
また、かつて(2021年)の展覧会に取材して制作した記録映像・記録集をあわせてご覧いただくことで、記録が、過去と現在・記録と記憶の曖昧な重なりに自立し、鑑賞者の発見や想像を促すことで、そこに作品や表現を「ひらきつづける」ことの可能性を体感いただけるのではないでしょうか。

Gallery PARC
GRAND MARBLE

Press Release:2022.07.07

sube / shirube [reboot]
2021-2022
#02 Tanaka Shusuke
Creating foresight through unity
2022.7.9 sat. —7.31 sun.

『すべとしるべ 2021 馴れ初め工場:Beginning of love』 会場風景 撮影・麥生田兵吾

展覧会名 すべ と しるべ (再)
sube / shirube [reboot] 2021-2022

# #02
# 先見の形骸団子
## Creating foresight through unity

出展作家 **田中 秀介**
**Tanaka Shusuke**

会　期 **2022年 7月9日[土] — 7月31日[日] 13:00〜19:00 水・木休廊**

入　場 **無料**

主　催 **ギャラリー・パルク**
〒602-8242 京都府京都市上京区皀莢町287 堀川新文化ビルヂング 2階 MAP
TEL 075-334-5085(T) 075-334-5360(F)
MAIL info@galleryparc.com HP www.galleryparc.com

アクセス
○地下鉄烏丸線「丸太町」・「今出川」駅より徒歩約20分
○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩約18分
○京都市バス9番・50番(JR京都駅から約22分)・12番(阪急烏丸駅から約15分)・67番(阪急大宮駅から約12分)系統「堀川中立売」バス停下車徒歩1分
○駐輪場・駐車場(3台) 有 ※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

Gallery PARC

GRAND MARBLE

Press Release:2022.07.07

sube / shirube [reboot]
2021-2022
#02 Tanaka Shusuke
Creating foresight through unity
2022.7.9 sat. —7.31 sun.

［会場風景］

すべ と しるべ 2021 #01

# 馴れ初め丁場 Beginning of love

## 田中 秀介 Tanaka Shusuke

2021年 10月9日［土］・10日［日］・11日［月］・16日［土］・17日［日］・18日［月］
オーエヤマ・アートサイト

←こちらより展覧会記録をご覧いただけます。

Gallery PARC
GRAND MARBLE

**Press Release:2022.07.07**

sube / shirube [reboot]
2021-2022
#02 Tanaka Shusuke
Creating foresight through unity
2022.7.9 sat. —7.31 sun.

2021年、田中秀介（美術家）、守屋友樹（写真家）の2名のアーティストは、京都府南丹市八木町に残る築400年を超える旧酒造を会場にそれぞれ6日間だけの展示を行なった。
その記録として、麥生田兵吾（写真家・映像作家）と今村達紀（振付家・ダンサー）による映像と、野口卓海（美術批評・詩人）の編集・制作による記録集（デザイン：三重野龍、執筆：小林 公 ・はがみちこ・神馬啓佑、写真：麥生田兵吾）が残された。

### 映像撮影・編集・制作：
## 麥生田 兵吾 Mugyuda Hyogo
http://hyogom.com
https://www.galleryparc.com/pages/project/pj_2021/2021_02_subeshirube.html

「Artificial S」という一つの主題に専念し制作活動している。「S」は複数の意味と、そして複数性そのものを包含させている主題は全5章で構成され、全章を通して「生と死」が互いに溶け合うさまを表現する。また 2010年より写真活動「pile of photographys 」をweb上で発表し続けている。主な展覧会として「Artificial S 5 -心臓よりゆく矢は月のほうへ-」（Gallery PARC・2018）、大阪府20世紀美術コレクション展「ココロヲウツス」（江之子島文化芸術想像センター・2020）。『すべとしるべ　2020』でも映像制作を担当。

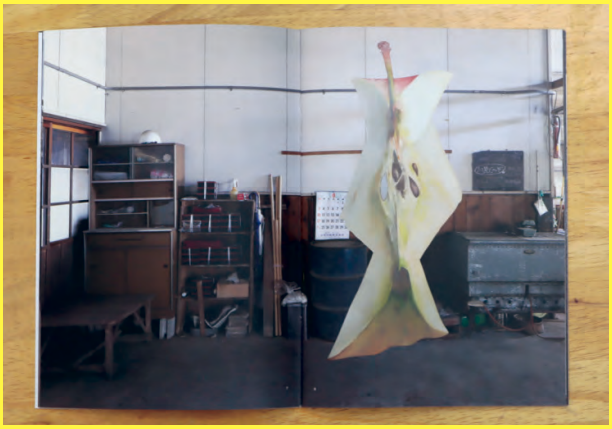
### パフォーマー（映像出演）：
## 今村 達紀 Imamura Tatsunori
https://imamuratatsunori.net

ダンサー、振付家、パフォーマー、役者として、akakilike、ANTIBODIES Collective、BRDG、contact Gonzo、KIKIKIKIKIKI、Monochrome Circus、Sung Yong kim、したため、多田淳之介、桑折現、白井剛、小金沢健人、村田宗一郎、飯名尚人、塚原悠也などの作品に参加。呼吸を止めて踊る「無呼吸」、関節を鳴らす「関節話法」、曽祖父の記憶と踊る「もけもけしたものがはみ出てくる」などの作品を制作。毎日どこかで呼吸を止めて踊る「本日の無呼吸」は今年で9年目（https://www.youtube.com/channel/UCTM_8yLxlN-9ZT8K7p6pV7w/videos）。
『すべとしるべ　2020』では写真・映像内においてパフォーマーとして参加。

←こちらより記録映像をご覧いただけます。

### 記録物編集・制作：
## 野口 卓海 Noguchi Takumi

美術批評家、詩人。おもな展覧会企画として、「有馬温泉路地裏アートプロジェクト」（2013）、「まよわないために -not to stray-」（the tree konohana・2014）、「松見拓也 写真展 | KASET」(hinemos・2015) 、「METRO WHITE」（阪急メンズ大阪・2016）、「人と絵のあいだ」（HAPS・2016）、「みたりのやりとり」（マガザンキョウト・2017）など。現代美術へのアプローチと平行し、デザイン・ストリートカルチャー・音楽といった同時代的な他領域へ積極的に携る活動として、hinemosにも参加。2015年からは写真家・松見拓也とデザイナー・三重野龍とのサイファーのような月刊紙片「bonna nezze kaartz」の発行を開始、同名義で展覧会や作品制作なども行なう。



### 記録物デザイン：
## 三重野 龍 Mieno Ryu